

自閉症スペクトラムの子どもは黄色が苦手で緑色を好む傾向を確認 —発達障害による特異な色彩感覚—

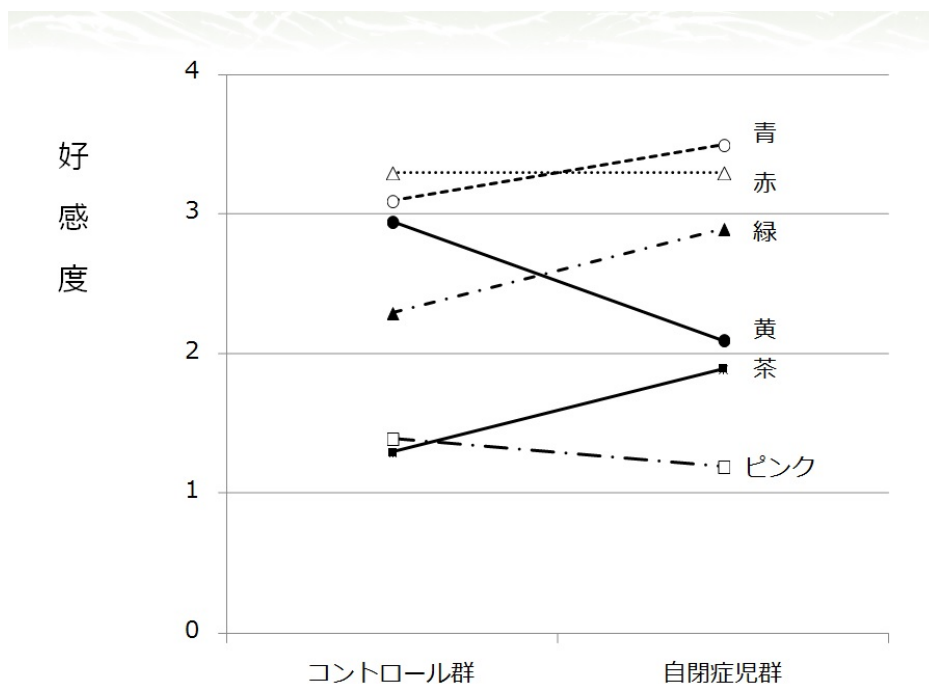
概要

自閉症スペクトラム障害(Autism Spectrum Disorder 以下、ASD)には、対人関係の形成、コミュニケーションが不得手である傾向が見られます。また、興味の範囲がいちじるしく限られている、こだわりが激しい、という特徴もあります。アメリカ疾病予防管理センターの2012年の統計によると、平均して68人にひとりがASDに該当すると考えられています。

正高 信男 京都大学霊長類研究所教授とマリン・グランドジョージ レンヌ第一大学講師は、ASDの特徴のひとつと考えられる知覚(感覚)過敏の中でも色彩に着目し、ASD児の色彩感覚にどのような特徴がみられるかを調査しました。6色の好感度を調査した結果、ASD児は黄色が苦手で緑色を好む傾向があることが分かりました。

街頭の広告や看板には目を引く(刺激の強い)色が使われている例が多く、ASD児にとっては苦痛な場合も多いと考えられます。生活環境を整えるうえで色彩の面も配慮する必要があることを示唆する研究結果です。

本成果は12月23日、スイスのオープンアクセス誌 *Frontiers in Psychology* に掲載されました。



自閉症スペクトラム児とコントロールにおける6つの色の好感度の比較

1. 背景

ASD では、相互的な対人関係が苦手なことや、興味関心が限られているといったことが症状として現れます。その一因に、障害にともなう「知覚過敏」があると考えられています。たとえば、ごく普通の大きさの音に対してもそれを「大きすぎる」と知覚判断し「うるさい」と感じたり、ごく普通の皮膚接触でさえ「痛み」をおぼえたりといったことが挙げられます。その結果、自閉症の子どもは周囲からするとごく普通に話しかけたつもりであるのに、怒られていると誤解したり、あるいは予防接種を極端にこわがったりして、パニックに陥ることも珍しくありません。

本研究では、同様のことが色の知覚でも生じているのではないかと仮定しました。実際に自閉症の子どもは色彩感覚が特異的であることを示唆するエピソードが国内外で報告される例が増えてきています。とりわけ顕著にみられるのが、緑色へのこだわりです。たとえば、東田直樹は30カ国で翻訳されている『自閉症の僕が飛び跳ねる理由』のなかで、緑色への執着について、かなりのページを割いています。アメリカではスターバックスのストローが自閉症児の「人気商品」であることも知られています。しかし、これまでこの問題を体系だて実験的に調べる試みは全く行われていませんでした。

2. 研究手法・成果

本研究では、レンヌ在住の29名の4歳から17歳のASDの男子を対象に、同年齢の38名の定型発達男子（とくに障害の認められない子ども：コントロール群）と色の好みについて比較をおこないました。実験を行った67名に色覚障害はありません。実験にもちいられた色見本は、赤、青、黄、緑、茶、ピンクの6色で、対比較をおこない各色の「好感度（好みの程度）」を数値化しました。

それらの値をふたつのグループで比較してみたところ、いずれにおいても赤と青がいちばん好まれるのは共通しているものの、コントロール群では好感度の高い黄色がASD児では好まれず、反対に緑と茶の好感度が上昇することが確認できました（図参照）。

これは黄色があらゆる色のなかで、もっとも輝度（明るさの程度）が大きく、生理的に刺激の強い色彩であることと関係していると考えられます。例えば黄色はこの特性から信号でアラート機能をあらわすものとして一般にひろく流布しています。

障害のない者であっても黄色に長時間にわたりさらされると感覚疲労をおこすことが知られていますが、一般的に通常より知覚水準が過敏である自閉症児では、日常的にこれと類似した状態にあるとも考えられます。日常的な感覚疲労の結果として黄色への好感度が低下し、より生理的にマイルドな緑と茶の刺激が好むのだろうと考察しました。

3. 波及効果、今後の予定

研究結果をふまえたうえで改めてわれわれの周囲を見回してみると、まさに色彩の洪水という事態が出現していることが伺えます。見る者の注意をすこしでも喚起するべく、派手な装飾をほどこしあるいは黄色を多用していますが、この環境は自閉症児にとっては強烈に過ぎるもので苦痛以外のなにものでもないのかもしれない。すくなくとも自閉症児の生活環境に関しては、配慮する必要があることを示唆する結果だと考えられます。

4. 研究プロジェクトについて

本研究は日本学術振興会 科学研究補助金(課題番号:25285201)の支援を受けました。

<論文タイトルと著者>

タイトル : Atypical Color Preference in Children with Autism Spectrum Disorder

著者 : Marine Grandgeorge, Nobuo Masataka

掲載誌 : *Frontiers in Psychology*